愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	インターンシップＡ		
担当者(Instructors)	鈴木 直政	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択
			実務家教員科目(Pro teacher course)

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

小学校に出向いて、実際の授業の様子を６時間分参観する。子どもと教師とのやりとりや教師の指導方法の工夫など、教育現場の姿に直接触れることを通して、子どもの実態と教師の役割について理解を深め、教師としての素養を高めていく。ここで学んだことは、４年次に行われる教育実習に活かすことになる。また、文科省が重視している「学校インターンシップ活動」の一環としても位置付くものでもある。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	実験・実習
授業の方法(Class method)	教育学部がサービスラーニング実習校として連携してきた名東区の小学校で３日間、低学年・中学年・高学年（予定）の授業参観を行う。授業の様子を観察する時の視点を事前に設定した上で、教師の活動及び児童の反応について実際の姿を観察する。その後、参加した学生間で報告・集団討議を行い、板書や発問、指示の仕方等の授業の基本的な進め方について学ぶ。また、一斉指導をするときの留意点やグループ学習の進め方、その中で習熟度の差への対処の仕方についても理解を深めていく。さらに、令和3年度から導入されたタブレットの活用の仕方についても学んでいくようにする。
当該科目と実務との関係(Relationship between cource and practice)	教材や学習展開など様々な工夫をして子どもが成長できる授業を作ってきた経験、また、よりよい授業を作るために若手教員を指導してきた経験を活かして当該授業を展開していく。よりよい授業を作るには、教師の確かな指導技術が必要である。当該授業では、実際の授業を参観しながら、授業のねらいを達成するための基本的な指導技術について具体的で確かな形で把握していくことができる。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	授業参観についてのガイダンス	単元のねらいや単元構成など、１時間の授業をするために必要な事項について理解し、授業参観の目的について説明を聞く。	□
第2回	授業を参観する時の視点設定	授業を参観するときの視点を分類・整理して、参観する時の自分の視点を設定する。（発問、板書、学習形態、ITCの活用等）＜レポート提出①＞	□
第3回	低学年の授業参観（２限）	低学年の授業（２時限目）を事前に設定した自分の視点から参観し、授業の記録をまとめる。	□
第4回	低学年の授業参観（3限）	低学年の授業（3時限目）を事前に設定した自分の視点から参観し、授業の記録をまとめる。	□
第5回	低学年の授業参観の振り返り	低学年の授業について振り返り、教師の指導方法について大切なことや工夫されていたことなどを発表し、基本的な指導方法のあり方について話し合う。＜レポート提出②＞	□
第6回	中学年の授業参観（２限）	中学年の授業（２時限目）を事前に設定した自分の視点から参観し、授業の記録をまとめる。	□
第7回	中学年の授業参観（3限）	中学年の授業（3時限目）を事前に設定した自分の視点から参観し、授業の記録をまとめる。	□
第8回	中学年の授業参観の振り返り	中学年の授業について振り返り、教師の指導方法について大切なことや工夫されていたことなどを発表し、基本的な指導方法のあり方について話し合う。＜レポート提出③＞	□
第9回	高学年の授業参観（２限）	高学年の授業（２時限目）を事前に設定した自分の視点から参観し、授業の記録をまとめる。	□
第10回	高学年の授業参観（3限）	高学年の授業（3時限目）を事前に設定した自分の視点から参観し、授業の記録をまとめる。	□
第11回	高学年の授業参観の振り返り	高学年の授業について振り返り、教師の指導方法について大切なことや工夫されていたことなどを発表し、基本的な指導方法のあり方について話し合う。＜レポート提出④＞	□

第12回	児童の発達段階と教師の指導法	児童の発達段階に合わせて、事前に設定したそれぞれの視点における教師の指導法について重要な点を話し合う。	□
第13回	教科の内容と教師の指導法	それぞれの教科の特性をつかみ、教科ごとの教材研究の在り方や必要とされる教師の指導法について話し合う。	□
第14回	基本的な教師の指導力を確かにする模擬授業	発問の仕方や板書の仕方、タブレットの活用方法といった指導方法のポイントを意識し、授業参観で学んだことを活かして模擬授業に取り組む。	□
第15回	授業参観の成果と自分の今後の課題	授業参観で学んだことを振り返り、教育実習に向けての自分の課題を集団討議を通してまとめる。＜レポート提出⑤＞	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前に配布された参観する授業の資料を読んで、参観する授業のねらいや内容をしっかり把握し、参観するポイントを整理しておく。（3時間程度） 授業参観を通して自分が学んだことや集団討議で話し合ったことをレポートにまとめる（２時間程度）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出されたレポートは添削した上で返却するとともに、学んだことを活かして行った模擬授業についてもコメントして、自分がこれから学んでいくべきことの指針とできるようにする。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019全学共通DP2	子どもの実態を踏まえた授業を参観することで、授業を進める上で必要な指導法の在り方を分析することができる。参観後の報告や協議を通して、適切な指導法の在り方を考えることができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			60%	40%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内容のまとまりごとに、理解したことや次の課題となることについてレポートにまとめて提出する。（5回）
集団討議における発言や最終レポートを通して、指導方法のポイントや児童の実態についての理解度やそれに取り組む意欲的な態度について把握する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	参観する授業の教科書	
2	新任教員の研修用手引き（名古屋市教育委員会）	
3	学習指導案例集（名古屋市教育委員会）	
4		
5		